



茨城県立水戸桜ノ牧高等学校  
国際教育部  
第7号 2012年1月

—Think globally, act locally. Be ambitious, be steady.—

新しい年がスタートしました。昨年 2011 は a year of happenings でした。

今年 2012 は a year of happiness になることを願いたいと思います。

今年も皆さんに様々な「声」と「情報」を提供していきたいと思います。

*Now let's listen to the voices from around the world and go global!*

●Go Global は本校のホームページにも掲載されています。写真等はカラーで見ることができます。

## ■ ポスターメッセージに思いを込めて

### Why do I make these posters ?

校長 中村 一夫

昇降口脇の掲示板に貼ってあるポスター、見てくれていますか？

なぜあのようなポスターを作ったのかをお話しします。きっかけはアメリカの学校を見学したことです。10校以上の小中高を見てきましたが、どの学校でも至る所に掲示物があふれていました。それらの中には素敵なポスターがたくさんあり、感心しました。日本に帰ってインターネットで調べたら、実は市販されているポスターであることが分かり、少しがっかりしました。しかし、魅力的なポスターが手に入るアメリカをうらやましいとも思いました。今度アメリカに行くときには、ぜひ Teachers Store (ポスターをはじめとする豊富な種類の教材

を売っているお店) に立ち寄りしたいと思います。

日本で売っていないなら自分で作ればいいと考えて、試行錯誤を繰り返しながらポスターを作っています。日本語で書くと照れくさいような文章でも英語なら照れずに書けます。私自身の英語の勉強にもなり一石二鳥です。私がみなさんに伝えたいことを素直に表現したつもりです。これからも掲示板を見てください(学校のホームページに過去のポスターが全て載っています)。

話は変わりますが、下の写真のような手作りの掲示物が、アメリカの学校(正確には私が見てきた学校)には、あふれています。この写真からは、**Math=Life** と訴えかけている先生の思いが見てとれます。掲示物の写真をたくさん撮ってきましたので、機会があったら紹介しましょう。英語が身近に感じられると思います。

## ★3年生に向けて

“The dice is cast.” “Trust yourself.”



## ■ How We Celebrate the New Year

除夜の鐘を聞き、新年を迎え、初詣をする一典型的、伝統的な日本人の新年の迎え方の一つですね。アメリカ人は一般的に新年をどのように迎えるのでしょうか。Susan先生に聞いてみました。

### Celebrating the New Year's Holiday

Susan Thomas

The New Year's holiday seems to be an important holiday in Japan. We also celebrate New Year's in my country; however we celebrate it in a way that is different from Japan. The New Year's holiday in Japan seems to be a day for families to come together. Sometimes families in America celebrate New Year's together; however, it is more of a day for boyfriends and girlfriends. In Japan, it is a religious day, but in America it is just a day for parties.

Every year in New York City a giant ball made of crystal and light bulbs is hung on a high pole in Times Square. Times Square is a famous business and shopping area in New York City. When the clock strikes midnight on New Year's Eve, the ball drops 23 meters. Beautiful fireworks are lit. Many famous music groups perform and celebrities give speeches. People come from all around the world to see it, and many others will watch the event on television.

Right before midnight, we count the seconds by saying, "Five, four, three, two, one...Happy New Year!" After the clock strikes midnight, it is custom to say, "Cheers," (kampai) and drink champagne. It is also a tradition to kiss the person you love, like your boyfriend or girlfriend. Many people throw confetti, small, colorful pieces of paper, blow in paper horns or use other noise makers. Some people wear funny hats or costumes. The traditional song we listen to after the clock strikes midnight is called Auld Lang Syne. The phrase, "Auld Lang Syne," comes from Scottish English. "Auld Lang Syne," means, "times long ago." The song means that we should remember old friends. In modern times, except when singing this song, we never use the phrase, "Auld Lang Syne."

## Auld Lang Syne

Should auld acquaintance be forgot,  
And never brought to mind?  
Should auld acquaintance be forgot,  
And auld lang syne!

Chorus:

For auld lang syne, my dear,  
For auld lang syne.  
We'll take a cup o' kindness yet,  
For auld lang syne.

※Auld Lang Syne は日本では、独自の歌詞がつけられ「蛍の光」として親しまれています。メロディは様々なところで BGM として使われています。

### English Expressions

新しい年を迎え、「よーし、今年...するぞ!」と新年の抱負を抱いた人も多いと思います。英語では、New Year's resolution と言います。

1年生のある授業で My New Year's resolution is to ...と書いてもらいました。一番多かったのは、to study harder than last year や to study hard every day すばらしい! 本校生は真面目です。部活で頑張るのでしょう、to practice hard in my club とか to be a regular player というものもありました。To keep smiling いつも笑顔で---いいですね。Not to eat too much や not to eat much sweets と健康志向の人もいました。ユニークなものでは、not to nap in class さらに to keep my body fat rate at 10% or less と言う人もいました。

Susan先生にも聞いてみました。  
"Well, I will practice the guitar and Japanese." と答えてくれました。

さて皆さんはどんな決意をしましたか。What's your New Year's resolution?

## ■ 海外留学アンケート結果（1年生対象）

1年生の82%が「将来海外へ行ってみたい」 32%が「海外留学に興味がある」

昨年12月、1年生に24年度の「オーストラリア短期留学」を案内しました。その際、国際交流や海外留学についてどのように考えているかを知る目的で「海外留学アンケート」を実施しました。その集計結果を報告します。

質問は全部で8つ。YesかNoで答え、Yesと答えたところは具体的に記述してもらいました。アンケート回収人数は291人でした。以下にあげる人数や割合は291を基にしています。

質問1 海外に行ったことがある  
Yes 65人(22.3%)

質問2 将来海外にいてみたい  
Yes 239人(82.1%)

質問3 質問2でYesと答えた人に  
具体的にいきたい国は

※アメリカとヨーロッパの国が圧倒的でした。行きたい「国」と尋ねましたが、地域や都市名で答えた人もいました。理由までは聞いていませんが、なぜ行きたいのか、その理由には興味がありますね。一人で複数答えている人も多くいました。

- ① アメリカ (90人)
- ② フランス (62人)
- ③ イギリス (50人)
- ④ イタリア (40人)

\*「ヨーロッパ」が  
31人いました。

- ⑤ カナダ(18人)
- ドイツ(18人)
- オーストラリア(18人)
- 韓国(18人)
- ⑨中国(8人) ⑩オランダ(5人)
- ⑪ベルギー(4人) ⑫ニュージーランド(3人)

以下、スウェーデン、フィンランド、エジプト、ロシア、インドが各2人、1人ずつあがったのは、ノルウェー、ポーランド、オーストリア、バチカン、ブータン、北朝鮮、台湾、ベトナム、カンボジア、パプアニューギニア、ニューカレドニア(仏領)、タヒチ(仏領)でした。



質問4 外国人と話すのが好きだ(日本語でも英語でも)  
Yes 126人(43.3%)

質問5 外国人の友達がいる  
Yes 58人(20.0%)

質問6 海外留学に興味がある  
Yes 95人(32.6%)

質問7 質問7でYesと答えた人に行くとしたら いつ どこに

※「いつ」は、高校生、大学生、社会人から選んでもらい(複数回答可)、「どこに」は具体的に記述してもらいました。

「いつ」

- ①大学(61人)②高校(25人)
- ③社会人(22人)

「どこに」

- ① アメリカ(37人)
- ② フランス(14人)
- ③ イギリス(13人)
- カナダ(13人)

以下、オーストラリア(9人)、ドイツ(6人)、ニュージーランド(4人)、イタリア(4人)でした。また、ヨーロッパ(9人)、どこでも(5人)、英語圏(3人)と答えた人もいました。

質問8 来年度のオーストラリア短期留学に興味がある  
Yes 57人(19.6%)

◆他校や全国のデータがないので、確かなことは言えませんが、外国や留学についての本校生の興味関心度は比較的高いのではないかと思います。

国際化、グローバル化が進むなか、皆さんは世界とどのように関わっていきますか。

## ■短期留学の魅力は？

すでに案内したように、今年の夏休みにオーストラリアの高校への短期留学派遣を行います。滞在中は、ホームステイしながら、現地の高校の授業や行事に参加して交流を深めます。

果たしてうまくやっていけるのか、英語は通じるだろうか。不安を感じている人も多いかもしれません。

2年前まで本校はカナダの高校へ派遣を行っていました。現3年生が1年生の時、13名の生徒が参加しました。期待と不安で出発した彼らも、全員が帰国して「短期留学」「異文化体験」のすばらしさを異口同音に語っています。

帰国報告書から彼らの声を聞いてみましょう。

(全文からの一部抜粋です)



『このプロジェクトに関わった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。英語に対する意欲は留学以前もありましたが、その時より何倍もあるので、もっと英語を好きになっていくと思います。』

『自分にとって初めての海外で、不安ももちろんあったけれど、本当に行って良かったです。すべてが刺激的で感動することがあったり、互いに理解し合えたりと、言い尽くせないくらいの思い出が今でも色あせずに残っています。』

『カナダとNYに行ってみて改めて日本文化の良さを知ることができたと思います。また、カナダとNYの文化も学べました。英語力に関してはまだまだだと感じたのでこれからの英語の学習に力を入れていきたいです。』

『カナダではうまく英語を話すことも聞き取ることもできず、迷惑をかけていたけどみんな一生懸命わかってくれてうれしかったです。カナダの人はみんなやさしくて、面白くて、最高に楽しい時間を過ごすことができました。』

『お父さん、お母さんは、私を娘のように思って接してくれました。このカナダでの1週間は英語の苦手な私にとって、いい体験になりました。』

『最後のお別れでまたハグをされたときは、感謝の気持ちでいっぱい、涙が出てしまいました。学んだことを忘れず、これから色々な人に伝えていきたいと思います。』

『今回、カナダに留学してたくさんのことを学ぶことができました。留学のために動いてくださった先生方や旅行会社の方々、参加させてくれた両親に感謝したいと思います。まだ15歳なのにこのような貴重な体験ができて本当に良かったです。』

『学校最終日の昼休みにカフェテリアで“よさこい”を踊って、“A Whole New World”を歌いました。とても緊張しましたが、カナダに来る前にみんなとたくさん練習したので、思いっきりできました。夜のホストファミリーとのパーティーでは、スピーチが噛み噛みになってしまったけれど、温かい拍手をもらえて良かったです。』

『私たちは文化も言葉も違うけれど、同じ人間として交流することができたと思う。また“カナダ”という一つの国の中にたくさんの文化が入り混じっていて、様々な料理があった。それぞれのホームに文化がある。それがカナダなんだ、と思った。』

『この留学を通して、言葉は違っても同じ人間であり、心から伝えようとすれば、気持ちが伝わることも分かりました。この貴重な経験を生かして、将来につなげていきたいと思います。』

『“We could see you again soon. If you want to come for a visit, let us know. Your room will be waiting for you.” 最後の日にホストマザーがそう言ってくれた。絶対にまた来ようと思った。頑張って英語の勉強に励んで、もっともっと話せるようになって、もう一度会いに行きたい。』

『留学で学んだことは英語力だけではなく、人とのコミュニケーションの取り方や感謝する気持ちなどたくさんありました。その学んだことを、将来の夢を実現するための土台にしていきたいです。』

『たくさん経験をして、たくさん学んで、自分の中の世界観が広がった気がします。この短期留学に関わった全ての人に感謝したいと思います。』

◆今まで気づけなかった新しい自分を発見する。今の自分のメリットをさらに伸ばしてみる。この短期留学にはそんなチャンスが皆さんを待ち受けています。

Now you try!